

景況実感調査(2019年6月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適切な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 6月は前月比微増であったが、市況が弱含みで収益を圧迫。在庫量増加、スクラップ安など収益環境は悪いが、秋需までに在庫量を整え市況維持に努める。
- ② 滞船問題がまだ解決せず困っている。荷動きの鈍さを物語っている。値上げできない分キープに努めているが、値下げを提示している業者が出始めており、値崩れを懸念している。
- ③ 稼働日20日間となり、対前月比1日増も売上、数量共に微増にとどまった。輸入材の増加も止まらず、薄板在庫も450万トンを超える中で高炉メーカーは値上げを発表と、店売り流通は股裂き状態の中で市況は足下ジリ安気配を強めている。短納期対応の加工を伴う物件向けは受注単価もそこそこで採算が取れるが、定尺・数物の単価はかなり指値も厳しく採算割れと思われる単価が散見される。オリンピック関連需要のピークアウトと消費増税のタイミングが同時に訪れる下期の予想はまったく解らない。
- ④ 最悪だった5月から見れば販売量は増加したが、レベル的には低調と言わざるを得ない。薄板三品在庫5月末462.6万トン！予想通り、4月末比さらに増。売れないはずである。

中板

- ① 当社は前月に引き続き過去10年で最低水準の販売量となった。鋼板供給サイドの価格方針が逆ベクトル二極化する上、依然として紐付き価格と店売り価格の格差は解消されず、二次流通としては将来への不安に困惑するばかりだ。

厚板

- ① 産機ユーザーからの受注は安定している。計画も年末まで横這い推移としている。建機ユーザーからの受注は低位にて前月比横這いに終わっている。海外需要の地域別変動によって、生産機種構成が変化したことも受注を抑え込む要因になった。土木案件の受注は低調が続いており、回復の目途は立っていない。建築案件は、高張力ボルトの不足が解消に向かうという期待があるものの、いまだ切板受注には結び付いていない。素材販売は先月比にて増加したものの、客先のビジネスは低調という先が多いことから、7月以降は減少するものと思われる。高炉、電炉間にて価格動向が異なることも懸念材料である。在庫が先月、大幅に増加したことから今月は入荷を抑えた。

一般開金鋼

- ① 6月は5月よりも3営業日増なるも、一日当たりの売上高は5月比14%減。粗利高は12%減の右肩下がりが続いている。そろそろ底打ちしないと秋需はおろか、今後1年の見通しさえ弱気にならざるを得ない。

工用鋼

- ① 6月の倉出しはマイナス。5月と同様に低調な月だった。メーカーの値下げがあり、引合いも減少し、指値も厳しくなっている。市況も軟化しており、7月も厳しい月になる。

異形棒鋼

- ① スクラップの下落により新規物件の引合いは更に減少。在庫販売は土木向け中心に堅調。
- ② 店売りの荷動きは低位のまま変わらず。価格は少し弱含み。細かい当用買いの中、切断、曲げ加工が少しあるので維持している。ここは価格を維持し、秋へ。

平鋼

- ① 荷動きが非常に悪い。もともと不需要期だが、物件の遅れも重なり荷動きは閑散としている。在庫もなかなか減らず身動きが取れない。価格は変わらず様子見。
- ② 稼働日数上、前月よりは若干増加したが、良かったわけではない。店売りは低迷したまま、物件の新規見積りも成約も少ない。市況は値崩れを起こし始め、安値が散見される。先々の見通しも暗いままだ。

車量用鋼

- ① 6月の店売りは電話の鳴りが悪いままの1か月だった。そして、7月に入るともって鳴らない状況ではあるが、今が踏ん張りどころなので、頑張りたい。
- ② 前月から引き続き高稼働の状態。これから例年の繁忙期となるため受注動向に注意する。
- ③ 5月は長期連休の後で注文が集中したが、6月はその反動と、端境期のため落ち着いている。不需要期とはいえ昨年よりはペースが好調なので、先々の需要期に向けて在庫準備等を進めている。

鋼管

- ① 出荷量は5月に比べて日割りでも回復してきたが、前年よりも先行きの不透明感が強くなっている。
- ② 4～6月は荷動きが悪かったが、7～9月は主に建築・土木で回復の見通し。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車関連は比較的堅調だが、勢いを欠く状況。建機もメーカーや機種によってバラつきがあり、産機・工作機械は減速感が顕著で向け先により格差が大きい状況。店売りは今ひとつ迫力を欠く展開が続く。在庫は増加傾向にあり、調整を進めながら価格維持に徹する状況。
- ② 比較的堅調であった自動車・建機でも、車種によってバラツキが出始めている。価格的には踏ん張っているが、店売りは低調が続いている。
- ③ 構造用鋼、工具鋼ともに出荷が微減。在庫は微増。直近も出荷は微減の見通し。

磨棒鋼

- ① 大口の紐付き品については、一部物件を除き調整局面となっている。店売り品についても大きな落ち込みは無いものの、昨年のような勢いを欠いている状況。このような中、製鋼メーカーでは諸コストの上昇、原材料の上昇分を価格転嫁したい意向の様子。現状、供給過多の局面では販売価格に反映させるのは厳しいものと思われる。需要そのものが無くなったわけではないので、調整局面の終息が待たれるところである。

その他

<鉄スクラップ>

- ① 3月より下がり始めた相場は、地区や品種にもよるがトン当たり1万円下がっている。7月の国内メーカーの粗鋼生産は減少と聞いている。メーカーによってはスクラップの購入量に制限をかけているところもある。輸出向けも不振。相場はもう一段下がるのではないかと。

<金属表面処理加工>

- ① 6月は5月よりスライドした物件物が予定通り動いたことと、スポットの扱い量が予想以上に活発であったことから、扱ひ量は15%増。物件物で付加価値の高い加工も多く、売上高は大幅増加。7月も橋梁、タンク案件を含め前月同様の処理量を予定。